

もり おか じょう
盛岡城

の お と
note

もりおか しろ
みなさんは、盛岡にお城があったことを

知っていますか？

もりおか
盛岡のまちができるきっかけとなった

もりおかじょう しろ
『盛岡城』がどんなお城だったのか、

ちよつとだけのぞき見してみましよう。

Memo 

Lesson 1



もり おか じょう

盛岡城のはじまり

もりおかじょう きず もりおかはん さいしよ はんしゆ なんぶ のぶなお
盛岡城を築いたのは、盛岡藩の最初の藩主である南部信直です。

ひろ とち も だいまよう よ ぶし ちから ま
そのころは、広い土地を持ち大名と呼ばれた武士たちが、さらにその力を増すた
め、互いの土地を奪いあっていた戦国の世。その中でも、関白という地位を得
ていた豊臣秀吉が、最も大きな力を握っていました。

のち もりおかし ち なが あらす つづ なか いちだい
もちろん、後に盛岡市となるこの地でも、長く争いが続いており、その中の一大
みょう なんぶ のぶなお ちから たし ひでよし むす もと
名であった南部信直は、その力を確かなものとするため、秀吉との結びつきを求
めます。そして、秀吉からの信頼が大きかった北陸地方の大名 前田利家のもと
たいせつ かしん はけん しよじょう か なか まえだ け なか ぶか
へ大切な家臣を派遣したり、書状を交わしたりする中で、前田家との仲を深め、
と な てんしろう ねん とよとみ せいけん せいしき みずか とち
その取り成しにより、天正18年(1590)に、豊臣政権から正式に自らの土地が
みと
認められることになりました。

とよとみせいけん いちいん のぶなお どうじ もりおか きた とち しろ かま
豊臣政権の一員となった信直は、当時、盛岡よりも北の土地に城を構えていまし
ひでよし かしん あさのながまさ げんざい もりおかじょうあと ぼしよ
たが、秀吉の家臣であった浅野長政のすすめなどもあり、現在の盛岡城跡の場所
きよてん うつ もりおかじょう ちくじょう じょうかまち せいび はじ ちくじょうこうじ
に拠点を移すこととし、盛岡城の築城と城下町の整備を始めます。この築城工事
だいはんしゆ としなほ だいはんしゆ しげなほ ひ つ やく ねん つきひ つい かんえい
は2代藩主 利直→3代藩主 重直と引き継がれ、約40年の月日を費やして、寛永
ねん いちおう かんせい
10年(1633)にやっと、一応の完成へとたどりつきました。

ご もりおかじょう はん せいむ ちゅうしん はんちよう はんしゆ きよじょう さだ もりおか
その後、盛岡城は藩の政務の中心である藩庁と藩主の居城として定められ、盛岡
じょうかまち はってん もりおかじょう もりおか
は城下町として発展していきます。これが、盛岡城のはじまりであり、盛岡のまち
づくりのはじまりとなりました。



なんぶ し もりおか おさ まえだ け
南部氏が盛岡を治めるきっかけとなった前田家との
しんこう ご なが つづ のぶなお むすこ げんぶく とし
親交はその後長く続き、信直の息子は元服の時、
としいえ とし じ たまわ としなほ かいめい
利家から「利」の字を賜り、「利直」と改名したんだよ！

まめ ちしき
豆知識 ⑦

もり おかじょう とくちょう



盛岡城の特徴

いし がき

石垣

もりおかじょう とうほく ち ほう ほうぶ めずら そういしがきづく めざ しろ
盛岡城は、東北地方北部では珍しく、総石垣造りを目指した城です。

しろ じだい いま か ぼしょ のこ いしがき み ぼしょ
城があった時代から、今も変わらずその場所に残る石垣をよく見ると、場所によつて積み方が異なることがわかります。

おも み つ かた らんづみ むのづみ
主に見られる積み方は、「乱積」と「布積」です。

らんづみ ふぞろ いし く あ ふきそく
「乱積」は、不揃いな石を組み合わせると不規則に

つ ほうほう なか かこう
積んでいく方法で、その中でもほとんど加工して

しぜん いし つ あ のづらづみ
いない自然の石を積み上げたものを「野面積」と

いいます。これが、盛岡城で見られる一番古い石

がき つ かた むのづみ よこほうこう れつ そろ
垣の積み方です。「布積」は、横方向の列が揃うよ

つ かた もりおかじょう せいき こうき ころ
うな積み方のことで、盛岡城では17世紀後期頃

いしがき かくにん
からの石垣で確認できます。

せいき まつ せいき なか なが ねんげつ
16世紀末から18世紀中ごろという長い年月を

げんざい すがた もりおかじょう いしがき いくど
かけて現在の姿となった盛岡城の石垣は、幾度

こうちく つ なお おこな あいだ いしがき かこう ぎじゆつ へんか
もの構築や積み直しが行われており、その間に石垣の加工技術も変化しました。

さまざま つ かた こんざい
様々な積み方が混在しているのは

そのためです。

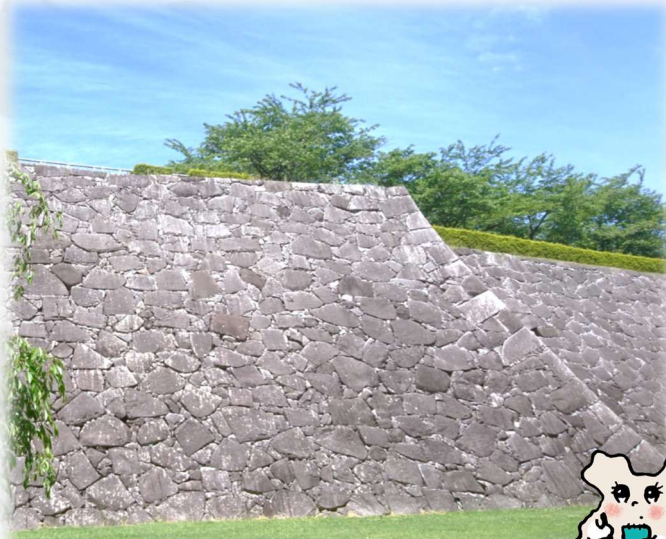
もりおかじょうあと つ かた いし
盛岡城跡では、積み方によって、石

がき しゅうちく じき し
垣の修築された時期を知ることが

できるため、城跡内を歩けば、その

うつ か たど
移り変わりを辿ることができます。

これは何積みかな・・・？



◆ なわ ばり 縄張

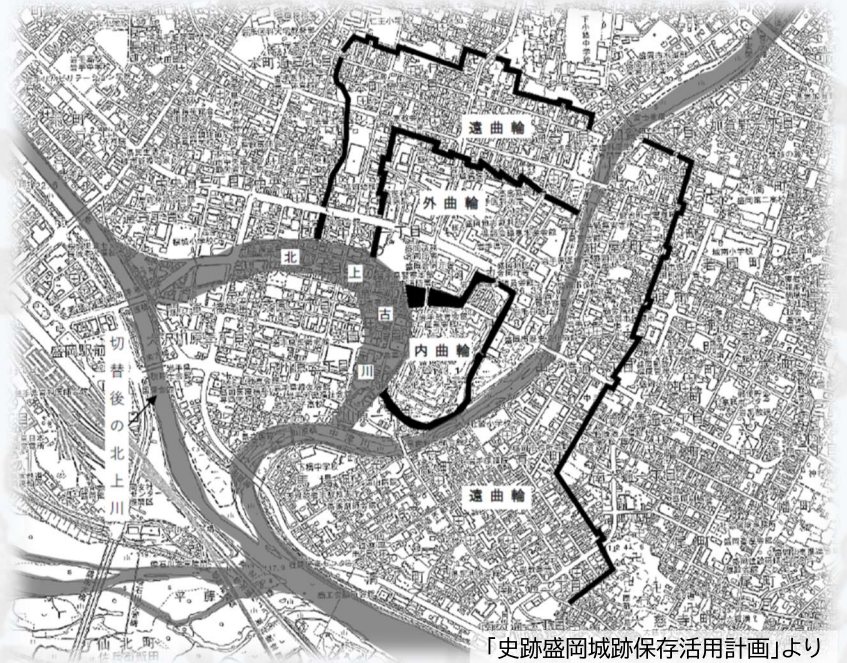
なわばり しろ ぜんたいぞう せつけい ちくじょう しろ はんい
 縄張とは、城の全体像の設計のことです。築城のためにはまず、城とする範囲や
 なか けんちく たてもの めぐ ほり いち ほんまる にのまる さんのまる はい
 その中に建築する建物、巡らせる堀の位置、本丸・二ノ丸・三ノ丸をどのように配
 ち ぜんたいてき こうぞう き ひつよう
 置するかなど、その全体的な構造を決める必要があります。

もりおかじょう うちくる わ ごじょうない うちくる わ きたがわ かこ なんぶ し いちぞく じゅうしん やしき
 盛岡城は、内曲輪(御城内)、内曲輪北側を囲む南部氏一族や重臣などの屋敷が

そとくる わ そとくる わ かこ
 あった外曲輪、外曲輪を囲む
 ちょうにん ちゅう かきゅうぶし す
 町人や中・下級武士たちが住
 とおくる わ こうせい ていかく
 む遠曲輪という構成で、梯郭
 しき なわばり
 式という縄張となっています。

うちくる わ こうぞう ほんまる
 また、内曲輪の構造は、本丸
 にのまる さんのまる だんさ
 から二ノ丸、三ノ丸と段下が
 れんかくしき なわばり
 りになる連郭式という縄張で、
 とよとみ き おおさかじょう こくじ
 豊臣期の大坂城と酷似して

いるともいわれています。



「史跡盛岡城跡保存活用計画」より

◆ いし きり ちょう ば けい かん 石切丁場の景観

もりおかじょう いしがき じょうない しゅうへん
 盛岡城の石垣は、城内やその周辺
 ち いき か こうがん いし ざいりょう
 の地域の花崗岩という石を材料と

こうちく ちさん ちしろう いしがき ぜんこくてき ち けい
 して構築されたいわば“地産地消”の石垣です。これは全国的にもめずらしく、地形
 し げん かつよう ちくじょう じれい きちょう
 や資源をうまく活用して築城された事例として貴重なものです。

せきざい か こう いしきりちょうば じょうない おおがた か こうがん え ぼ し いわ
 石材を加工する石切丁場でもあった城内では、大型の花崗岩である「烏帽子岩」や、
 いし わ やあな のこ いし み ぢか み
 石を割るためにあけられた矢穴の残る石などを身近に見ることができます。

いしがき なか ひと いし ぶんかつ せきざい じょうげ さ ゆう つ あ
 さらに石垣の中には、一つの石を分割した石材を上下や左右に積み上げた「ふた
 いし いしがき ふ しん だずさ ぶぎょうめい きざ いし かくにん
 ご石」や石垣普請に携わった奉行銘が刻まれた石なども確認できます。



たてもの 建物

もりおかじょうない てんしゅ やぐら もん きちようひん しょぞう ほうぞう しょうぐ るい しょくりょう
盛岡城内にはかつて、天守や櫓、門、貴重品を所蔵する宝蔵、諸道具類や食糧を
ほ かん くら はんしゅ さんぱい おとず じんじゃ いなり おお たてもの そんざい
保管する蔵のほか、藩主が参拝に訪れる神社や稲荷など、多くの建物が存在して
げんざい しろあとない のこ たてもの ひこくら
いました。しかし、現在も城跡内に残る建物は、彦蔵のみとなっています。

え ず びょうぶ かけじく もりおかじょう たてもの えが しりょう ふくすう すがた
絵図や屏風、掛軸など、盛岡城の建物が描かれた資料は複数ありますが、その姿
すこ こと しろ てんしゅ
はそれぞれ少しずつ異なります。城のシンボルでもあった天守については、その



現在の彦蔵



「盛岡城本丸二ノ丸図」より
:もりおか歴史文化館収蔵

いちぶ こしゃん のこ
一部が古写真にも残されて
あかがわら しょう やね
おり、赤瓦を使用した屋根
しゃちほこ かとうまど ほどこ
には鯨がのり、火灯窓が施
たたず うかが
されたような佇まいを窺い
し
知ることができます。

きよじょう じょうかく 居城としての城郭

なんぶ のぶなお ちくじょう かいし なんぶ しげなお にゅう
南部信直が築城を開始し、南部重直が入
じょう めいじ いしん いた もりおかじょう
城してから明治維新に至るまで、盛岡城
なんぶ し きよじょう きのう つづ
は南部氏の居城として機能し続けました。
ぜんこく しろ おお かいえき りょうちぼっしゅう くに
全国の城の多くが、改易(領地没収)や国
が じょうしゅ なんと か
替えなどによりその城主を何度も変えて



「奥州街道駅図巻」より:もりおか歴史文化館収蔵

なか もりおかじょう ねんいじょう か おな いちぞく はんしゅ きよじょう つづ
いく中、盛岡城は、200年以上変わることなく同じ一族の藩主の居城であり続け
しろ
ためずらしい城です。

もりおか もりおかはん かるう ねんかん こうたい
盛岡には、盛岡藩の家老が、198年間にわたって交代で
きるく つづ ざっしょ につきけいしき しりょう さつ のこ
記録し続けた「雑書」という日記形式の史料が191冊も残っていて、
もりおかはん で きごと し
そこから、盛岡藩のいろいろな出来事を知ることができるんだよ！

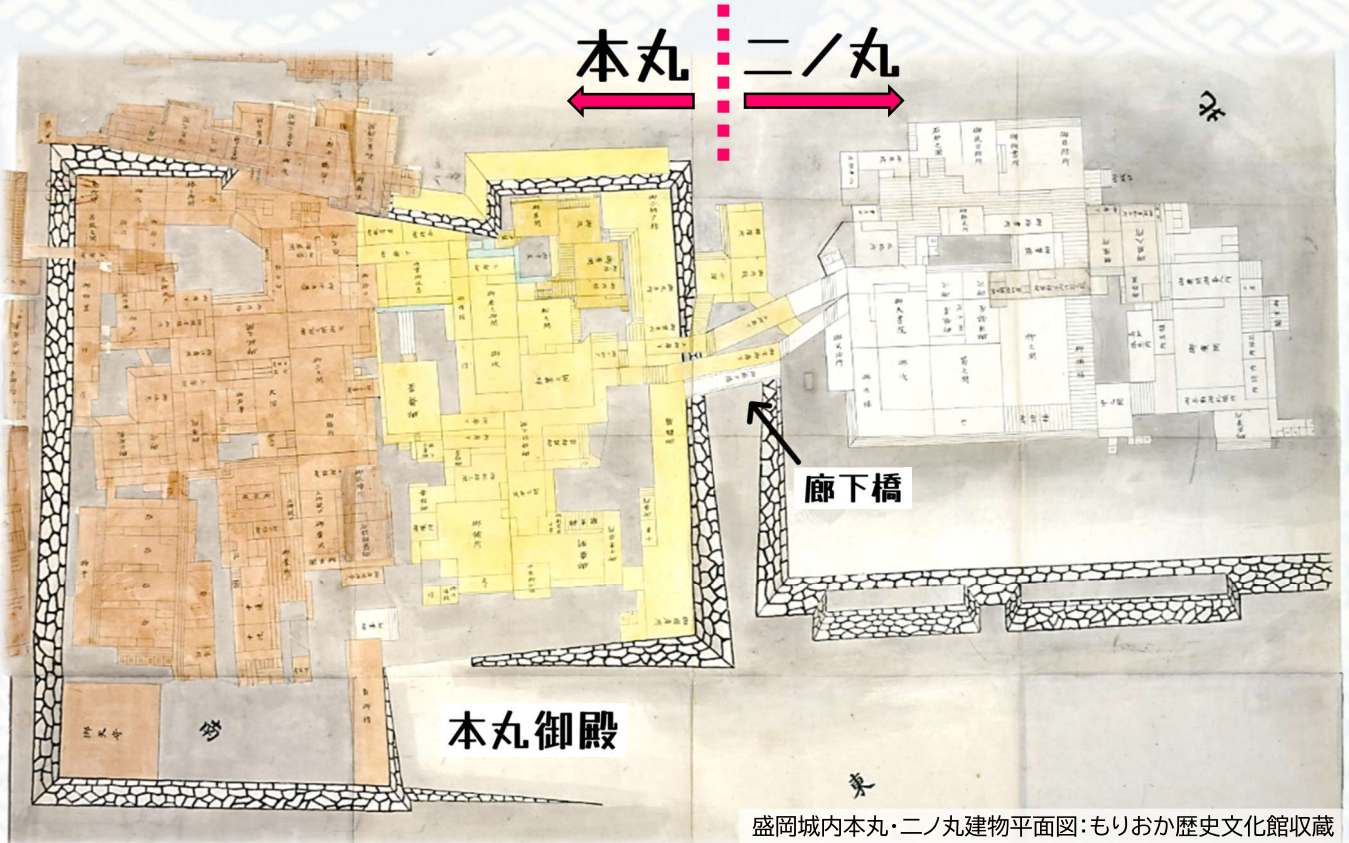
まめちしき
豆知識 ②



もり おか じょうない せん に ゆう
 盛岡城内に潜入!



ほん まる に の まる
 本丸と二ノ丸



盛岡城内本丸・二ノ丸建物平面図:もりおか歴史文化館収蔵

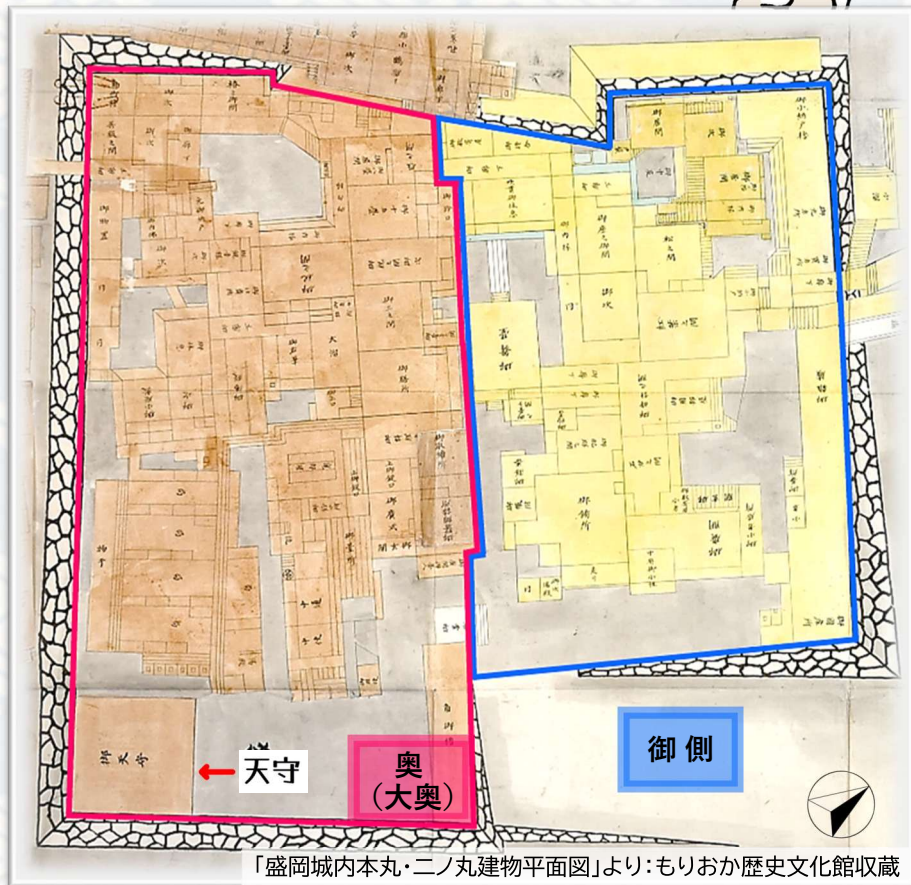
はんしゆ きょじょう どうじ ほん せいむ ちゅうしん もりおかじょう ほんまる に の まる
 藩主の居城であると同時に、藩の政務の中心であった盛岡城は、本丸と二ノ丸
 き の う お
 にその機能が置かれていました。

き の う ほんまる しゅうやく いっぱんてき きゅうりょう り よう つく
 これらの機能は本丸に集約されているのが一般的ですが、丘陵を利用して造ら
 もりおかじょう ち けいてき ほんまる めんせき せいげん ほんまる に の まる
 れた盛岡城は、地形的に本丸の面積が制限されていたため、本丸と二ノ丸それ
 もう たてもん ろう か ばし ふた たてもん き の う ぶんさん
 ぞれに設けた建物を廊下橋でつなぐことで、二つの建物にその機能を分散させ
 ていました。

はん ちゅうすう ほんまる ほんまる ご てん はんしゆ にちじょうせいかつ おく くわかん
 藩の中核である本丸(本丸御殿)は、藩主が日常生活を送るプライベートな空間
 せいむ と おこな やくしよ き の う も くわかん ひろ ま
 と、政務を執り行う役所のような機能を持った空間にわかれていました。広間や
 はんし しつ むしつ はい に の まる おおしよいんどう おも ほん ぎしき じゅうよう
 藩士の執務室などが配されていた二ノ丸(大書院等)は、主に藩の儀式や重要な
 ぎょうじ と き つか ば しよ
 行事の時に使われる場所でした。

ほんまる ごてん せま

本丸御殿に迫る！



ほんまる ごてん なか さず
本丸御殿の中は、左図
のように、2つの区域に
わけることができます。
おそば よ
「御側」と呼ばれていた
くいき おも せいむ と
区域は、主に政務を取
り行っていた空間です。
おこな こうかん
ここには、藩主や家臣た
ちの執務室や、客人を
もてなすための茶室・
なかにわ のうぶたい そな
中庭・能舞台などが備
わっていました。

おく おおおく はんしゅ いちぞく こうかん みなみがわ ほんまる ぜんたい
「奥(大奥)」は、藩主やその一族のプライベートな空間です。南側は、本丸全体を
ささ きのう も くいき つぼね ゆどの はん やしき つか じよちゆう
支える機能を持っていた区域で、局や湯殿など、藩の屋敷に仕える女中たちが
せいかつ こうかん ととの もりおかじよう てんしゅ
生活するための空間も整えられていました。盛岡城のシンボルであった天守が
きず くいき きたがわ はんしゅ いちぞく きよじゆうこうかん きよしつ
築かれていたのもこの区域です。北側は、藩主やその一族の居住空間で、居室や
しんじよ ぶつじ しんじ かか へや なんぶ け かつちゆう いわ ぎしき おこな
寝所のほかに、仏事・神事に関わる部屋や南部家家中の祝いや儀式を行うため
かくしき たか へや
の格式の高い部屋などがありました。

まめ ちしき 豆知識 ③

もりおかじよう とくがわ いえやす たまわ う とら か
盛岡城には、徳川家康から賜ったカンボジア生まれの虎が飼われ
ていたというエピソードがあったり、明治維新後すぐにアメリカ人
せいねん おとず かいがい えん
の青年が訪れていたりするなど、海外との縁もあったんだよ！



うしな もり おか じょう 失われた盛岡城

もり おか じょう こ しゃ しん 盛岡城の古写真

げんざい もりおかじょうあと おう じ
現在の盛岡城跡には、往時を

おも お たてもの
思い起こさせる建物がほとん

のこ てんしゅ に
ど残っていません。天守や二

かいやぐら うつ こ しゃ しん
階櫓などが写るこの古写真は、

ばくまつ さつえい かんが
幕末に撮影されたと考えられ



盛岡城古写真・清養院所蔵

もりおかじょう たてもの すがた とら ゆいいつ しりょう もりおかじょうない たてもの
ており、盛岡城の建物の姿を捉えた唯一の史料となっています。盛岡城内の建物

あと おお じ だい なか すがた け
は、この後の大きな時代のうねりの中で、そのほとんどが姿を消していきました。

もり おか はん しゅう えん 盛岡藩の終焉

めいじ い しん せいじてき しゃかいてきへんかく なか ばくはん たいせい お
明治維新といわれる政治的・社会的変革の中で、それまでの幕藩体制は終わりを

つ ばく ふ し はい かく ち おさ しょだいみょう しん せい ふ おこな はんせき
告げます。幕府の支配のもと、各地を治めていた諸大名は、新政府が行った版籍

ほうかん せいさく りょうち りょうみん てんのう へんじょう あら はんち じ
奉還という政策により、その領地と領民を天皇に返上し、新たに藩知事としての

にんめい う ばくまつ お ぼ しんせんそう きゅうばくふ がわ いちいん たたか
任命を受けました。幕末に起きた戊辰戦争において、旧幕府側の一員として戦い

やぶ なんぶ し めい じ がんねん てんぼう はいち が しろういしはんち じ めい
敗れた南部氏は、明治元年(1868)に、転封(配置替え)により白石藩知事を命じ

られましたが、翌年には、献金を条件に盛岡藩知事への復帰が認められます。新

せい ふ ちよつかつち もりおかじょう かん り しんしゅう まつしろはん もりおかはん ひ つ
政府の直轄地であった盛岡城の管理も、信州の松代藩から盛岡藩に引き継がれ、

に の まる ふたた はんちょう かいちょう
二ノ丸には再び藩庁が開庁されました。

た がく けんきん げんぼう えいきょう はんざいせい はたん
ところが、多額の献金や減封などの影響が大きく、藩財政はすぐに破綻してしま

けっか もりおか はん めい じ ねん ぜんこく さきが はいはんち けん ねが
います。その結果、盛岡藩は、明治3年(1870)に全国に先駆けて廃藩置県を願

で はん とう ち まく と
い出て、藩による統治は幕を閉じました。

もり おか じょう はい じょう

盛岡城廃城

はいはん ち けん ご めい じ せい ふ もりおかけん せつ ち どうしよ もりおかけんちょう はんちょう
廃藩置県後、明治政府により盛岡県が設置されます。当初の盛岡県庁は藩庁と

おな に の まる お けん せいむ ちゅうしん にな き のう もりおかじょうない のこ
同じ二ノ丸に置かれ、県の政務の中心を担う機能はそのまま盛岡城内に残され

ました。しかし、めい じ ねん (1871)には、せいむ た よう か と も な し き ち ぶ そ く た て も の
明治4年(1871)には、政務の多様化に伴う敷地不足や建物の

ろうきゅうか り ゆう き のう げんざい いわ て けんちょう ち うつ
老朽化を理由に、その機能も現在の岩手県庁の地に移されてしまいます。

のち せい ふ ぜんこく のこ じょうかく そんばい せんてい おこな もりおかじょう そんじょう
その後、政府により、全国に残る城郭の存廃の選定が行われ、盛岡城は「存城」の

ひとつに選ばれます。ただ、すでにめい じ つ じょうしゅ うしな しろ こうはい すす
すでに名実ともに城主を失っていた城は荒廃が進んで

おり、さいしゅうてき い じ こんなん はんだん めい じ ねん がつ
最終的にその維持は困難と判断されました。そして、明治7年(1874)3月、

いっばんにゆうさつ やく かんもん ほん さ き じょうない たてものとう たいはん
一般入札により約2,700貫文で払い下げが決まり、城内の建物等はその大半が

てつきよ もりおかじょう はいじょう むか
撤去され、盛岡城は廃城を迎えることとなりました。

もり おか じょう い ちく たて もの とう

盛岡城の移築建物等

ほん さ たてもの いち ぶ ぶざい めい じ ねん ころ じょうない
払い下げられた建物の一部の部材については、明治12年(1879)頃まで城内

とう ほ かん あと しゅうへん しょうにん じしゃ ひ と けんちくぶざい さいり
等に保管された後、周辺の商人や寺社などに引き取られ、建築部材として再利

よう もりおかじょう たてもの い ちく でんしょう
用されたといえます。また、盛岡城の建物をそのまま移築したという伝承をもつ

けんちくぶつ そんざい もりおかじょうないが し ょう つた たてぐ かなぐ
建築物も存在します。そのほか、盛岡城内部で使用されたと伝わる建具や金具、

ふすまえ ふくすうのこ たてもの うしな いま し ないがい さまざま ばしよ
襖絵なども複数残されており、その建物が失われた今も、市内外の様々な場所

もりおかじょう なごり かん
で盛岡城の名残を感じることができます。



盛岡城内の門の一つと伝わる清水寺山門




▲釘隠:もりおか歴史文化館収蔵



▲盛岡城襖図譜:もりおか歴史文化館収蔵



もり おか じょうあと いま
 盛岡城跡の今／これから

もりおかじょう きず ばしよ けん じょうかく い こう い こうえん せいび
 盛岡城が築かれていた場所では、県により、城郭の遺構を生かした公園整備が
 おこな めいじ ねん いわて こうえん かいえん こうえん いしかわたくぼく
 行われ、明治39年(1906)に岩手公園が開園しました。この公園は、石川啄木、
 みやざわけんじ さくひん ぶ たい もりおか めいしよ
 宮沢賢治の作品の舞台にもなった盛岡の名所で

あるとともに、春の桜や秋の紅葉をはじめと

した四季折々の風景も楽しむことができ、

市街地中心部の緑豊かな公園として、多く

の市民に親しまれています。

また、盛岡城跡は、かつての堀と石垣が良好な

状態で残されていることから、昭和12年(1937)4月17日に、国の史跡に指定

されました。この「史跡盛岡城跡」を適切に

保存・活用し、そこに残る多様な価値

を次世代へと受け継いでいくため

に、盛岡市では各種計画を作り、

盛岡城跡を守り育てるための事業

に取り組んでいます。その中では、本丸

史跡盛岡城跡整備基本計画鳥瞰図 (イメージ)

二階櫓など、城内にあった建物の様相を探る調査も行われています。

盛岡城跡は、そのはじまりから現在まで、

長きにわたり盛岡の暮らしの中に息づき、

その礎となってきた場所でした。

そしてきっとこれからも、盛岡の歩みを

物語る大切な場所として、ともにその歴史

を紡いでいく存在であり続けるはずです。

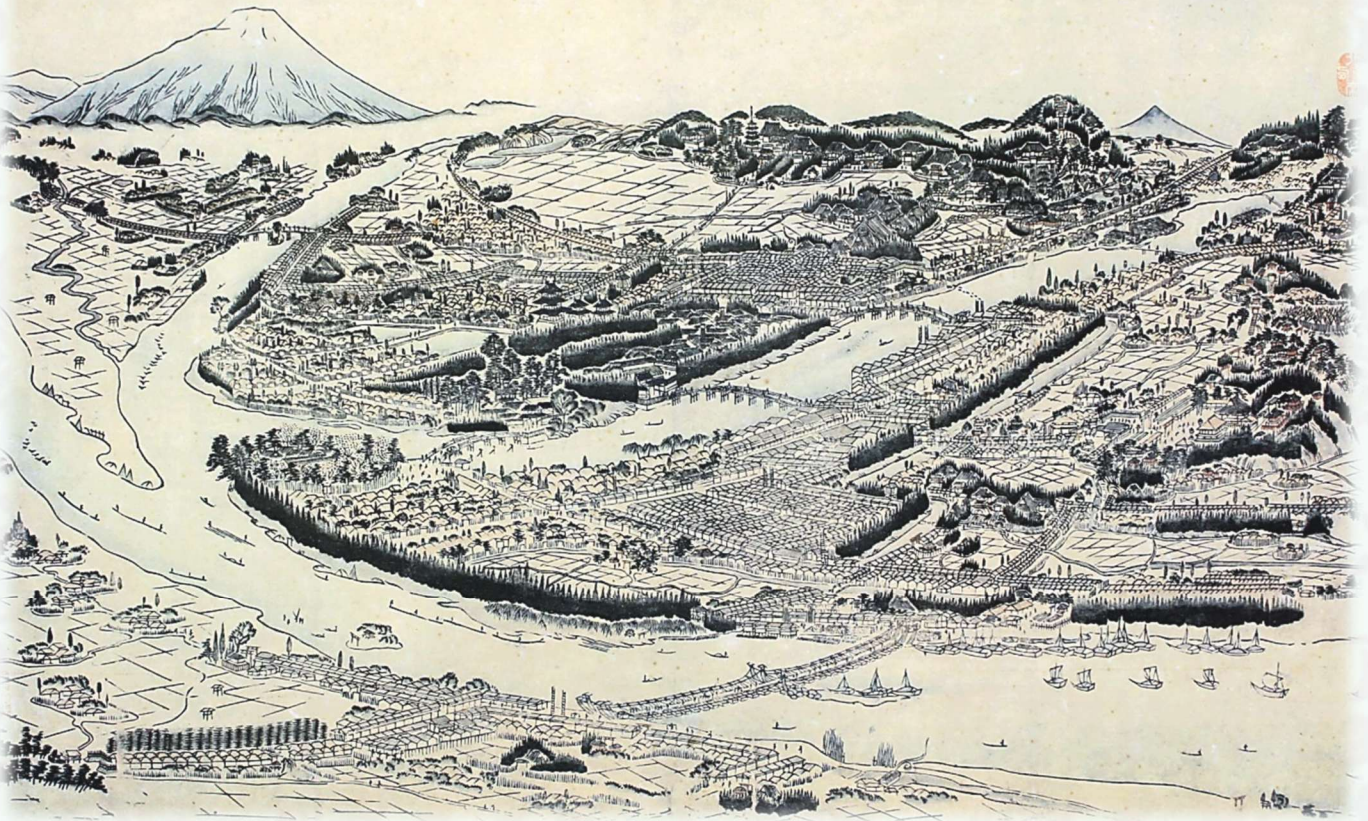


本丸南西部二階櫓等復元イメージ

さいご もりおかじょう たの まな
最後は、盛岡城を楽しみながら学べるクロスワードパズルです！

なぞ と かぎ なか
謎を解く鍵は、すべてこのノートの中にあります…

盛岡城下古絵図：もりおか歴史文化館収蔵



みなさま、^{こた}答えへとたどりつくことができましたでしょうか？

^{もりおかじょう} 盛岡城のこと、^したくさん知っていただきありがとうございました！

^{ちしき} その知識を手にした今、^{いま} 在りし日の盛岡城の風景を思い描きながら

^{こうえん} 公園内を歩き、^{ある} その時代に藩主が暮らした本丸から市内を一望して

^{ちが} みれば、そこには、いつもと違う新しい景色が見えてくるかもしれ

ません。

^{もりおかじょうあと} さあ、ぜひ盛岡城跡へ、おでっくなんせ！

Let's challenge!!

答	A	B	C	D	E	F	G	H

キーワード 🔍

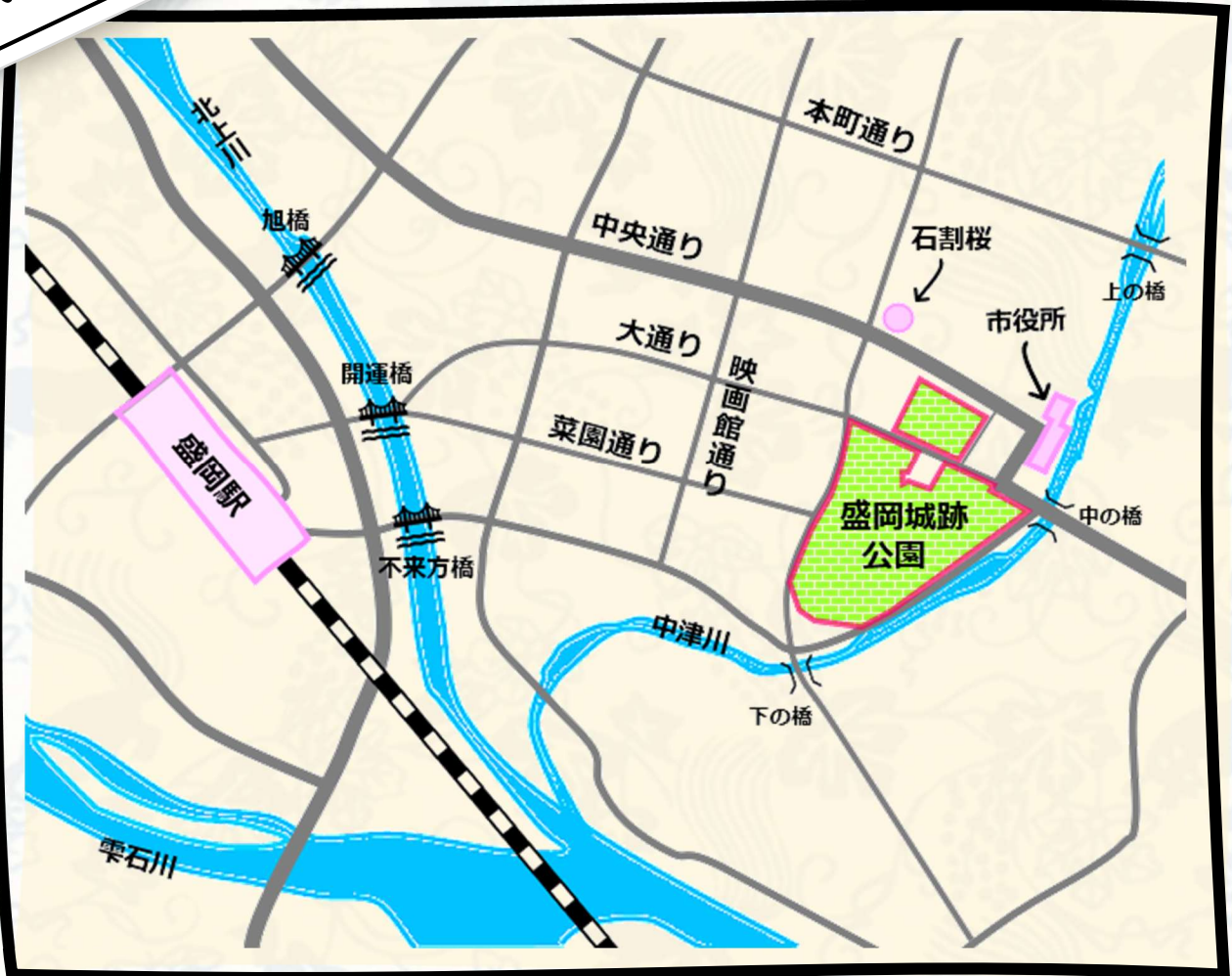
◆ タテ ◆

- ① 盛岡藩が明治3年(1870)に全国に先駆けて行ったのは?
- ② 盛岡藩の家老が198年間交代でしたため続けた日記形式の史料
- ③ 本丸と二ノ丸の建物をつないでいたのは〇〇〇
- ④ 盛岡城の石垣にも残る石を割るためにあけられた穴
- ⑤ 明治維新後すぐ、盛岡城には〇〇〇〇人の青年も訪れています
- ⑥ 盛岡城で見られる一番古い石垣の積み方
- ⑦ 今も城跡内に残される大型の花崗岩
- ⑧ 徳川家康から賜り、城内で飼われていたとされる動物

◆ ヨコ ◆

- ① 古写真に写るのは天守と〇〇櫓
- ② ずっと盛岡藩を治めていた南部氏が最初に知事として任命されたのは〇〇藩
- ③ 明治政府による城郭の存廃の選定の際盛岡城は〇〇の一つに選ばれました
- ④ 天守に施されていたとされる特徴的な窓
- ⑤ 南部氏とヨコ⑨の間を取り持ち、その後も長く親交が続いた北陸地方の大家
- ⑥ 天守と二階櫓の屋根にのっていました
- ⑦ 盛岡城の築城を始めたのは南部〇〇
- ⑧ 天守などの建物の屋根材とされています
- ⑨ 盛岡城築城の経緯に大きな関わりを持つ当時の中央政権の権力者
- ⑩ 城跡内に現存する唯一の建物

Access



もりおかじょうあと もりおかじょうあとこうえん もりおか し し がい ち ちゅうしん ぶ うちまる
盛岡城跡(盛岡城跡公園)は、盛岡市市街地の中心部である内丸に
い ち ひがしに ほん りよかくてつどうかぶしき がいしゃ ひがしに ほん もりおかえき ひがし やく
位置し、東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本) 盛岡駅から東に約
と ほ やく ふん ばしよ ちか
1.2キロメートル、徒歩で約15分の場所にあります。近くにはバス
てい ちゅうしゃじょう さまざま こうつうしゆだん か のう
停や駐車場などもあり、様々な交通手段でのアクセスが可能です。
こうえん く いきない れき し ぶんかかん しょざい しば ふ ひろば
公園区域内には「もりおか歴史文化館」が所在するほか、芝生広場
たもくてきひろば ち いき しょうぎょうぶつさん かんこうしげん い
や多目的広場では、地域の商業・物産・観光資源を生かしたイベント
し き つう かずおお かいさい
などが、四季を通じて数多く開催されています。

Memo 

盛岡城
note

発行：盛岡市教育委員会事務局
歴史文化課

作成：令和 7 年 1 月

盛岡市盛岡城復元調査推進室
(改訂：令和7年3月)

